

令和2年度第1回 文化財保護委員会 抄録

1 市民憲章唱和

2 新任委員自己紹介

(神谷浩委員)

3 異動職員・事務局職員紹介

(宮川部長、近藤課長、齋藤課長補佐、後藤主事、河村主事、榊原主事補)

4 教育長あいさつ

5 委員長、副委員長選任

(委員長：神谷浩委員 副委員長：岩田委員)

6 委員長、副委員長あいさつ

7 協議事項

(1) 令和元年度文化財保護関係事業結果について

【説明】(事務局)

- ・文化財悉皆調査は明法寺と菩提寺の2寺院を調査した。
- ・史跡説明看板を昨年度も更新した。カラーで図や写真が入ったものに更新しており、昨年度までに37枚更新した。
- ・文化振興計画は昨年度と今年度の2か年で策定する。昨年度は課題を整理するという
ことで、アンケート調査、ヒアリング調査を実施した。その調査内で文化・芸術活動
は重要だと思っている思いながらも実行できないこと、伝統文化団体の魅力をもっと
知ってもらいたいこと、小学生で始めた子が中学校で続けていく環境がないこと等の
課題や意見が出てきた。これらの課題をハード、ソフト、ヒューマンの3つに分け施
策とし、人間らしい豊かな市民生活ができることを目的とした計画策定を目指してい
く。
- ・本證寺の用地買収について昨年度は4754.44㎡を買収した。
- ・ワークショップ「未来寺子屋」でのメンバーが中心となり門前市を実施した。
- ・本證寺フェスティバル講演会ではラジオDJのクリスグレン氏に講演を依頼した。
- ・本證寺史跡整備にかかる発掘調査では外堀の一部を調査し、現地説明会には約180
名の人が来た。
- ・聖徳太子絵伝・善光寺如来絵伝修理のための調査を実施した。文化庁の綿田調査官に
お越しいただいた。

【意見】(委員)

- ・説明している順番と資料の羅列順が合致しておらずどこを説明しているか分からな
い。
- ・パワーポイントにある図表が手元の資料になく分からなかったため手元の資料にも
パワーポイントに使っている図表を用意してほしい。
- ・史跡看板更新について、看板は新しくなっても支柱は劣化したままであった。そ

のため支柱も直してほしい。

【質疑応答】

- ・文化振興計画とは他自治体が国が策定するように指示している文化振興基本計画にあたるものか。(委員)
- 委員が言っているのは文化財保護地域計画であると思う。これは安城市が現在審議会を行っている文化振興計画とは別のものである。(事務局)
- ・安城市は文化財保護地域計画を策定する予定はないのか。(委員)
- やるとよいことは承知しているが、現在は様子見の段階である。(事務局)
- ・文化振興計画と文化財保護地域計画は何が違うのか。(委員)
- 文化振興計画は第8次総合計画や教育大綱にしたがって、それぞれの課ごとの施策を理論づけどういったことをやっていくのかという計画である。(事務局)
- ・文化振興(芸術・文化)と文化財保護はどのように関係してくるのか。
- 芸術・文化も文化財保護も豊かな市民生活に欠かせないものであることから、方向性としては同じである。ただ、施策については若干違った内容が現れてくる。(事務局)
- ・西連寺のイチョウの看板はそこにある木がわざわざ写真で載っているが意味はあるのか。また、何故色づいた時の写真ではないのか。
- 落葉している冬の間、葉が生い茂っている姿を見もらうために写真を入れている。また、黄色い葉の写真は用意ができなかった。(事務局)

(2) 令和2年度文化財保護関係事業について

【説明】(事務局)

- ・指定無形民俗文化財保存・伝承事業補助として市指定無形民俗文化財の各団体に補助金を交付予定。
- ・文化財保存事業補助として史跡「山伏塚及び野田家墓碑」の崩落防止工事に補助金を交付予定。
- ・郷土史出版奨励事業として箕輪町史と和泉町史に補助金を交付予定。
- ・文化財悉皆調査については鷹巣委員をリーダーとした調査チームに調査を依頼する。
- ・建造物緊急調査は取り壊される予定の建造物の記録保存を行う。
- ・本證寺内堀環境整備事業委託については愛知学泉大学の矢部教授に委託。
- ・文化財保存管理謝礼については指定の史跡等に年間5千円程度支払っている。
- ・文化振興計画について、今年度は2年目になる。基本理念として「文化・芸術を人と人を繋ぐ架け橋とするために、誰もが隔てることなく文化・芸術に親しめる機会を設けること」を目指す。具体的にどうしていくかといった施策には3本の柱があり、これらを組み合わせてどのようなことをするのかという議論を進めていこうと思っている。
- ・本證寺境内整備事業土地購入費について、今年度は用地買収の予定はない。また来年

度に本證寺の横にある古民家を買収する予定。

- ・(仮称) 本證寺史跡公園ワークショップについて、今年度で3年目になり今年も行う。
- ・(仮称) 本證寺史跡公園整備検討業務委託について、令和4年度に基本計画を策定することを目標に今年度からコンサルに入ってもらったこととなった。
- ・本證寺石垣崩落防止調査委託について、本證寺の築地塀の下にある石垣が大きくはらんでおり倒壊しそうな状況である。この原因を調査する。
- ・本證寺の発掘調査は検討会議と作業部会で検討した場所を行う。
- ・姫小川古墳崩落防止工事設計委託について、かなり前から崩落が始まっていた。平成19年度に植生土嚢などを用いて崩落防止を試みたが成功しなかったため、平成28年度から様々な措置を講じ、発掘調査等の結果から本来の古墳を保存する計画で動いている。今年度に設計をし、並行して発掘調査を行い墳頂部にどれだけ土が堆積しているかを確かめその結果から保護層の厚みを決めていく。
- ・主催事業には考古学講座やおおぞら歴史教室などがある。
- ・出前授業については依頼に応じて行う。
- ・土器作りボランティアの活動支援についてだが、新型コロナウイルスの関係で土器作り教室は中止のままである。
- ・埋蔵文化財センター企画展について、安祥文化のさとまつりに合わせて企画展を実施する。
- ・本證寺フェスティバル講演会、安祥文化のさとまつり講演会について、本證寺フェスティバル講演会は中止となってしまった。そこで行う予定であった東京大学史料編纂所准教授の金子拓氏に「徳川四天王・酒井忠次」という演目で安祥文化のさとまつりで講演を行っていただく。
- ・令和元年度市内遺跡発掘調査報告展は現在、埋蔵文化財センターにて開催中。
- ・今年度の発掘調査は開発に伴う緊急発掘調査の他に、桜井駅周辺特定土地地区画整理事業に伴う確認・発掘調査や、桜林小学校児童クラブ建設に伴う発掘調査、本證寺境内整備事業のための確認調査や姫小川古墳崩落防止対策事業のための確認調査といった将来の史跡整備のための確認調査を行う。
- ・発掘調査報告書は「平成30年度市内遺跡調査報告書」と「本證寺境内Ⅲ」の刊行を予定。
- ・出土木製品処理は今年度も行う。

【意見】(委員)

- ・郷土史出版奨励事業補助について、この補助金を使用して出版した郷土史は博物館のミュージアムショップなどの棚に置くなどして広く周知して行ってほしい。
- ・郷土史出版奨励事業補助を用いて出版した郷土史を広く周知していくことによって他の町が参考や目標にできるので行ってほしい。こうしたところから文化・芸術振興は始まっていくと思う。

- ・更新した史跡看板について、スマートフォンによる操作などで市民がより分かりやすくなるようにしていただきたい。
- ・三河万歳などの伝承文化について、現在問題であるのは伝承活動となる「伝承者」がいなくなることである。こうした伝承の手立て・課題について文化振興計画にしっかりと盛り込んでほしい。また、安城市には若い世代の団体が活躍しているので、そういったところと上手に連携を取って伝承文化を守っていく手立てを講じてほしい。
- ・伝承文化について、調査を行い映像や紙に記しておく必要がある。伝承活動のための調査を行うのが行政としての役割であると思う伝承文化についてきちんとした調査を行ってから意義づけをすることで、伝承活動に繋がっていくと思われる。
- ・伝承文化、特に三河万歳は小学校と中学校への働きかけが上手に行われていないので事務局は上手く双方を繋ぎ合わせてほしい。また、文化財保護委員には現役やかつての教員の方が多数いるので、そのアイデアを上手に取り入れてこの問題に対応してほしい。
- ・全体的な事業計画について、文化財保護事業予算は増額となっているものの、他事業は総じて減額となっている。新型コロナウイルスの関係で来年度以降も計画通りに進んでいくかは分からないため、緊急性・重要性をよく吟味し、当初の事業が縮小や延期にならないようにしてもらいたい。

【説明・意見】（事務局）

- ・郷土史出版奨励事業補助について希望者には頒布をし、社会教育施設等にも配布している。しかし周知していくことが難しい課題があったので、出版物に対してどういった補助金で出版したのか記載して、置いておくという意見はいいと思った。
- ・史跡看板の件について、更新した看板の中にはQRコードが貼ってあるものがありそれをスマートフォンで読み込むと市のホームページが読めるようになっている。また市内にある「歴史の散歩道」という10カ所あるコースの起点にある看板には、スマートフォンでナビゲーションして連れて行ってくれるという機能がつけてる。
- ・伝承文化の件については事務局側も深刻な問題であると認識している。そのため、文化振興計画のヒアリングで伝承団体に色々聞いています。その中で、若い世代は同年代の人に誘ってもらおうと伝承団体に入りやすく活動を行っていきけることが分かった。

【質疑・応答】

- ・姫小川古墳崩落防止の復元・保存方法は適切（一般的なの）なのか。（委員）
- 復元には様々な方法がある。今回は崩落防止検討会議で専門家や地元の方と議論をしていく中で、鎮守の森は守りつつ、古墳の形が分かるところでは復元するといった全体として調和した復元方法である。（事務局）

(3) 今年度の安城市内所在の指定文化財の管理調査について

【説明】(事務局)

今年度も3班に分かれて実施予定。

8 報告事項

(1) 新型コロナウイルスの業務の影響について

【説明】(事務局)

- ・歴史博物館と埋蔵文化財センターが4月11日(土)から5月6日(水)まで閉館していた。
- ・本證寺で行っているワークショップ「未来寺子屋」も昨年度の最終回が中止になりそこから開催できていない。
- ・本證寺フェスティバル講演会が中止になり、そこで行う予定であった講演を安祥文化のさとまつりで行う。
- ・ハスの間引きを中止した。

(2) 市指定文化財なんじゃもんじゃの状態について

【説明】(事務局)

- ・令和2年4月25日に枯死を確認。今後は地元でお別れ会を開催してから指定解除を行いたい。

【意見】(委員)

- ・一昨年ごろから樹勢回復について色々と指導を行ってきたが、様々な事情が絡み枯死してしまった。

(3) 文化振興計画の進捗状況について

【説明】(事務局)

- ・今後のスケジュールは幹部会、市民文教委員会の意見を踏まえパブリックコメントを実施し、答申をしていく。

(4) 聖徳太子絵伝・善光寺如来絵伝の修理について

- ・令和2年1月30日に文化庁の調査官と修理業者と実地検分を行った。
- ・総額で約1億2,200万円かかり、14年かけて修理を行い本證寺の負担は1年あたり150万円となる。
- ・今後はクラウドファンディングや寄付といった方法を考えていきたい。

(5) 本證寺境内史跡整備事業について

【説明】(事務局)

- ・コンサル会社は(株)空間文化開発機構に受注。7月26日に検討会議開催予定。

(6) 姫小川古墳崩落防止工事について

【説明】(事務局)

- ・今年度実施設計を行う。(株)フジヤマに発注。

9 その他

(1) 文化財保護委員会の開催曜日について

【質疑・応答】

- ・現在土日に開催しているが、平日開催についてはどうか。(事務局)
- 平日は会議や授業があり参加が難しい。(委員)